

11月29日（水）に第3回全校授業研究会（中学部授業提示）が行われました。ここでは、授業研究会のグループ協議の中で出た意見の一部を紹介します。

中学部 作業学習（リサイクル班）

「アルミ缶のリサイクルをしようⅢ～自分たちで頑張ろう～」

生徒5名（中1生徒1名、中3生徒4名） 授業者：佐々木菜摘、能登谷明子、小番俊和

リサイクル班では、アルミ缶リサイクルの作業を通年で行っている。アルミ缶リサイクルの作業は、アルミ缶の運搬、選別、洗浄、プルタブ取り、つぶしなどの活動に分けられ、生徒はそれぞれの活動を分担しながら行っている。

作業学習を通して、生徒が自分から進んで活動に取り組む力や仲間と協力して活動する力を育むことをねらっている。



授業研究会では、以下の協議題と参観の観点のもと、抽出生徒3名について協議を行いました。

◆協議題 「すべての生徒が、学習目標や課題を理解し活動に取り組むための支援について」

◆参観の観点

○観点Ⅰ：生徒の学習の様子について

- ①生徒が自分の目標を理解して学習に取り組めていたか。
- ②目標を達成できていたか。

○観点Ⅱ：

- ①生徒が目標を理解するための教師の手立てやアプローチは適切であったか。
- ②生徒が目標を達成するための教師の手立ては適切であったか。

○本単元、本時の目標（学習指導案より抜粋）

	本単元での期待する姿	本時の目標	本時の目標を理解するための手立てやアプローチ
			本時の目標を達成するための手立て
A さん ・ 缶 つ ぶ し	<ul style="list-style-type: none"> ・目の前にあるアルミ缶がすべてなくなるまで、続けて缶つぶしの作業を行う。 ・1ケースのアルミ缶をつぶしたら、自分から教師に報告し、次の作業にとりかかると。 	自分の担当作業が分かり、作業時間内に4ケース分の缶つぶしをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のつぶすアルミ缶が分かるように、目標分の缶のケースを準備する。 ・意欲を持続できるように、1ケースが終わるごとに本人が好きなパズルの活動を取り入れる。 ・適宜励ましたり、報告時に称賛したりする。
		1ケースの缶をつぶしたら、教師に発声で報告する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1ケースが終わりそうなときに「あと少し」等と作業の進み具合を伝えて励ます。 ・自分から報告するのを待つ。

Bさん・選別 洗浄	<ul style="list-style-type: none"> 作業の工程を理解して、一人で作業を進める。 工程の区切りで、教師に報告や依頼をする。 	アルミ缶の大小を選別してケースに入れる。	<ul style="list-style-type: none"> 缶の大きさに合わせた入り口のあるトレーを準備する。 選別の終わりが分かるように、選別する缶の分量を定める。
		缶洗いの工程に沿って、自分で缶洗いをする。	<ul style="list-style-type: none"> 手順を一定にし、工程ごとのヒントになるキーワードを伝える。 作業量が分かるように、1ケース終わる毎に印を提示する。
		1ケースの缶を洗ったら、教師に言葉や発声で報告する。	<ul style="list-style-type: none"> 作業の区切りを意識できるように、「もう少しだね」「あと1本」等と作業の進み具合を伝える。 作業の区切りが分かるように、1ケース終わったら、水切りをする工程を設ける。
Cさん・プルタブ取り	<ul style="list-style-type: none"> 手首や腕の使い方を工夫し、自分から補助具に付いたアルミ缶のプルタブを取る。 1ケース分のプルタブを取り終えたら、渡す相手の顔を見て、教師と一緒にアルミ缶の入ったケースを渡す。 	自分から補助具に付いたアルミ缶に手を伸ばし、2ケース分のプルタブ取りをする。	<ul style="list-style-type: none"> プルタブを自分で取れるように、プルタブを緩める。 作業量が分かるように、2ケース分の缶のケースを見える位置に置く。 缶を渡すときに声を掛けて、自分から手を伸ばすのを待つ。 自分から手を伸ばしやすくように、補助具と座る位置を調整する。

○グループ協議から


	生徒の様子 (☆達成できていた点、▲達成できていなかった点)	教師の手立てやアプローチ (☆良かった点、●改善点と改善案)
Aさん	☆作業の流れが分かっていて1人で作業できていた。 ☆1ケースのアルミ缶をつぶしたら、自分から教師に報告するなど、作業の区切りで報告できていた。	☆つぶし終わった缶を置く場所など 動線が分かりやすい 。 ☆目標数が分かるように、 目標分の缶のケースを重ねて提示 して分かった。 ☆ 出来高表(※1) が、 本人の好きなパズルを完成させる形 になっていて、分かりやすくモチベーションアップにつながっていた。
	▲後半は疲れていたようで作業量が落ちていた。	● 前後半で作業量を変えてみる 等、作業工程に区切りをつける。
Bさん	☆やることが分かり、一定時間一人で作業を続けていた。 ☆工程を理解して、自分から作業に取り組む様子が見られた。 ☆時間いっぱい集中して取り組んでいた。	☆「洗う物がない」「ケースがいっぱい」が作業の「終わり」になっていて、 区切りが分かりやすかった 。 ☆ 1ケース分(洗う分)だけ缶を提示 していたので、終わりが分かりやすくてよかった。 ☆ 缶の大小を分ける補助具(※2)の選別BOX が工夫されていて、とてもよい。(完璧すぎないところがまたよい)。 ☆ 出来高表(※3) が、 本人が好きなアイスの表 になっていることで、やる気アップにつながっていた。
	▲授業では、空き缶がなくなったら教師が補充していたが、そのままにしていたら、Bさんがどうするのか気になった。	● 報告の際に、生徒から少し離れていてもよい のではないかと。 ● 空き缶を洗い場に出すタイミング 等を工夫する。 例：一気に出してみる、小出しにする、終了後にもらいに来るようにするなど。

C さん	<p>☆自分から手を伸ばして缶を手にする姿が多く見られた。</p> <p>☆プルタブが取れると、とてもうれしそうだった。</p> <p>☆プルタブが取れない時は、持ち方を自分で変えていた。</p>	<p>☆補助具（※4）が良かった。手の高さに合わせられ、遊びの部分があるため、プルタブに力が掛かりやすかった。</p> <p>☆教師のプルタブを緩める加減が良かった。</p> <p>☆握りやすい、目立つ赤い細い缶が良かった。</p>
	<p>▲目標数（2ケース分）は理解できていたかどうか。</p>	<p>●意欲を高めるために、報告するまでの作業量を減らして報告回数を増やしてみようか。</p> <p>●作業の区切りが分かるような補助具や手立ての工夫。（「3本できたら一区切り、区切りまで頑張ろう」という意識がもてるように、3本ずつ作業できる補助具を準備するなど。）</p> <p>●自立活動の視点から、Cさんが身に付けてほしい動きを取り入れる（腕をクロスさせる動きなど）。</p>

○指導助言（横手支援学校教諭兼教育専門監 佐々木義範先生より）

- ・授業を考えていく際には合理的配慮に基づいた視点が必要。生徒には意思表示をする力が求められる。作業を続けて、「疲れたので休ませてください」という要求を出せることも大事なこと。作業学習の授業でも、生徒のそのような力を育てていこうとする視点が必要である。
- ・生徒の活動内容を考える際、活動への「こだわり」につながることを考慮し、生徒の好きなことや興味があること（例えば、水を使った作業など）を、避けてしまうことがある。そうせず、生徒の気持ちや思いに寄り添い、生徒の好きなことや興味のあることを積極的に作業に取り入れる方法を探っていくことで、将来的に安定した気持ちで楽しく活動することにつながる。
- ・作業の出来高等を上げることが目標やモチベーションになりづらい生徒に対しては、どうしたら活動への意欲が高まるのか。活動自体に楽しさをもたせ、単元構成の工夫をすること。また、授業の活動時間と休み時間の設定等にも工夫が必要。例えば、生徒がリラックスでき、休憩を楽しむにして活動に取り組めるような休憩時間の在り方についても考えることが必要である。

○（資料）出来高表と補助具

Aさんの出来高表（※1）	Bさんの補助具（※2）
	
Bさんの出来高表（※3）	Cさんの補助具（※4）
	